

福島の子どもたち in 山口

第5回夏の保養プロジェクト

ご支援をお願いします。

福島第一原発事故から7度目の夏、多くの方々のご支援に支えられ「福島～山口 いのちの会」では今年、5回目の保養プロジェクトを計画することができました。

今年は、2014年、2015年の保養でお世話になった山口市宮野の「紅花舎」さんと、新たに阿武町の民宿「樵屋」さんのご厚意により、3組のご家族を迎え入れることになりました。

この3組のご家族は長期滞在を希望され、それぞれ山口県内は、下関、長門、県外は、長崎、京都へと移動しながら過ごされます。

少しでも長く、子どもたちを安全な場所で過ごさせたいという切実な思いが伝わってきます。

小さな市民団体の取組ですが、今後の活動が長く続けられますよう、物心両面にわたる皆様のご協力を心からお願いいたします。

保養実施期間 **8月4日（金）～10日（木）3家族（10人）**

滞在拠点 **山口市宮野「紅花舎」（8月4日、7～10日）**

阿武町の農家民宿「樵屋」（8月5、6日）

昨年に引き続き今年の保養も、子どもだけではなく事故後子どもたちの健康を心配し、心休まることのなかった保護者の方たちにも、ゆっくり休める居場所が必要なのではないかと思い、家族水入らずの時間を多く設けました。



保

養ってなんだ？

放射能汚染の少ない場所で過ごすことで体内の放射能を排出し、傷ついた遺伝子の修復を早めることができます。

最近受診され、甲状腺に問題の見つかった女の子のお母さんは、医師からできるだけ西の方へ、2週間の保養を奨められたそうですが、今の日本では自費で行うしかありません。

チェルノブイリでは30年たった今でも、子どもたちに保養の権利が与えられています。



大

切なのは子どもたちのいのち。

今年の6月現在、福島県の小児甲状腺がん、ないし疑いのある子どもたちは191名と発表されました。このデータには二次検査で「経過観察」となった子どもは含まれておらず、さらに多くの子どもたちが甲状腺がんを苦しんでいるものと思われます。

「多発している子どもの甲状腺がんは、福島原発事故の放射線の影響とは考えにくい」という報告が既に出されていますが、果たしてそのように言い切れるのでしょうか。チェルノブイリでは事故後30年経った今も、甲状腺がんだけでなく心臓や血管系などの病気で健康とは言えない子どもたちが大勢います。

「大切なのは子どもたちのいのち」。私たち「福島～山口いのちの会」は、ここ山口で出来ることから2013年から山口市で保養を始めました。小さな市民グループの取り組みです。皆さまのお力をお貸しください。

ご協力をお願いします！

カンパ振込先 : ゆうちょ銀行
口座番号 : 01350-8-89562
口座名義 : 福島～山口 いのちの会

お問合せ／連絡先 ☎ 090-2007-3201(村上)
福島～山口 いのちの会事務局 〒753-0047 山口市道場門前 1-2-19
山口市市民活動センター・さぼらんて気付
【お断り】さぼらんてには当会のスタッフは常駐していません。